

# 第103回全国高等学校野球選手権宮城大会

4回戦	石巻市民球場	2 時間	36 分			打安点盗犠四三残失併
仙台商業	0 0 2	0 1 0	0 0 0	3	【商】	28 8 2 1 3 5 7 7 1 0
仙台育英	0 0 0	0 0 0	0 2 0	2	【育】	36 9 1 3 0 5 2 12 1 1
(球)	佐藤拓哉 (一) 菅原 久 (二) 水戸恭平 (三) 細川和行					▽本塁打 なし
【商】	宮澤, 齋	一 吉田				▽三塁打 なし
【育】	伊藤, 吉野	一 小野, 木村, 小原				▽二塁打 なし (商) なし (育)
▽暴投	齋1(商), 吉野1(育)		▽捕逸	なし		

【評】

仙台育英は主戦の伊藤、仙台商業は左腕の宮澤が先発。仙台商業は、3回に安打と四球を絡めて1死満塁を作り、4番の宮澤が押し出し四球を選んで1点先制すると、続く吉田の犠飛で2点目を追加した。5回表に3点目を追加すると、その裏の守りからは主戦の齋に継投した。

対する仙台育英は、5回途中から登板した吉野が力強い投球で流れを生み、8回には連打や四球を絡めた一死満塁の好機に、内野ゴロと失策の間に2点を返した。

1点を争う好試合の最後は、気迫で上回る仙台商業が押し切り、8強に進出した。

4回戦	石巻市民球場	2 時間	53 分			打安点盗犠四三残失併
東北	0 0 0	1 0 1	1 0 0	5	【東】	38 10 3 1 5 7 6 12 4 2
仙台南	1 0 2	0 0 0	0 0 0	3	【仙】	36 4 2 0 2 5 11 7 4 0
(球)	野田 学 (一) 太田博昭 (二) 毛利 晃 (三) 加藤修一					▽本塁打 なし
【東】	岩佐, 小倉	一 生方				▽三塁打 なし
【仙】	池田, 對馬	一 浅野				▽二塁打 伊藤1, 小倉1 (東) なし (仙)
▽暴投	小倉1(東), 池田1(仙)		▽捕逸	なし		

【評】

仙台南と東北の試合は、仙台南の先発池田と東北の2番手小倉の息詰まる投手戦の末、延長11回、5対3で東北高校が激闘を制した。

1回裏、仙台南4番池田のセンター前タイムリーヒットで先制。さらに仙台南は3回裏、犠打エラーや4番池田のタイムリーヒットで2点を追加した。序盤は仙台南のペースで試合が進行したが、東北は4回裏、先発岩佐から小倉に継投すると、素晴らしい投球で流れを変えた。

追いかける東北は、4回表4番伊藤の二塁打をきっかけに1点を返し、6回表、7回表にそれぞれ1点ずつを返して同点とした。しかし、仙台南先発の池田は再三のピンチにも巧みな牽制でランナーをアウトにするなど、粘り強く投げた。

4回戦	鹿島台中央野球場	2 時間	1 分			打安点盗犠四三残失併
泉館山	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0	【泉】	31 3 0 1 0 0 4 4 2 0
聖和学園	0 0 0	0 1 4	1 0 x	6	【聖】	30 8 6 3 3 2 4 5 2 1
(球)	雁部博昭 (一) 鶴田代志昭 (二) 森山宏則 (三) 福田好伸					▽本塁打 なし
【泉】	岩間, 松村, 柿木	一 石川, 日向				▽三塁打 塚部(聖)
【聖】	阿部航	一 庄子				▽二塁打 なし (泉) 庄子, 遠藤 (聖)
▽暴投	なし		▽捕逸	なし		

【評】

両チーム先発投手が4回まで安打を許さない抜群の立ち上がりを見せた。5回裏聖和学園は、敵失に乗じ、遠藤の中犠飛で先制した。6回裏には庄子の2塁打など4本の長短打を集め、試合を決定づけた。

泉館山は、先発岩間が丁寧にコースを突く粘り強い投球を見せたが、終盤に聖和学園の打線が上回った。

4回戦	鹿島台中央野球場	2 時間	25 分			打安点盗犠四三残失併
利府	0 1 0	0 0 0	0 0 0	1	【利】	30 7 1 1 2 4 3 8 0 0
古川学園	2 0 1	0 0 0	0 0 x	3	【古】	28 7 2 5 1 4 3 6 1 1
(球)	佐藤 圭 (一) 鈴木 渉 (二) 西城皇祐 (三) 手塚仁基					▽本塁打 なし
【利】	小森, 小酒井, 曾我	一 下村				▽三塁打 なし
【古】	後藤	一 女川				▽二塁打 鈴木響 (利) 青沼, 後藤 (古)
▽暴投	後藤(古)		▽捕逸	なし		

【評】

古川学園は1回裏四球に2安打を重ね、ゲームを逆転した。3回裏には、重盗で追加点をあげ、先発後藤が利府打線を7安打1失点に抑え完投勝利をあげた。

利府は、先発メンバーに1年生が3人並び4安打をあげるも、チャンスに1本出なく、1点しか上げることができず、敗退した。

宮城県高等学校野球連盟

4回戦	石巻市民球場	2 時間 15 分		打安点盗犠四三残失併
富 谷	0 0 0 0 1 0	0 0 0 0	1	【富】 34 6 1 0 2 6 4 11 2 1
仙 台 三	0 0 0 0 0 1	0 0 0 0 1x	2	【仙】 32 7 2 0 3 0 3 5 1 0
(球) 菅原 幸 (一) 沼辺力也 (二) 布田秀斗 (三) 松浦茂樹				▽本塁打 なし
【富】 伊東 一 藤原 0				▽三塁打 なし
【仙】 佐藤千, 小野 一 藤原				▽二塁打 北條, 鈴木, 山中 (富) 菅原唯, 尾形, 菅原啓 (仙)
▽暴投 なし				▽捕逸 なし

【評】

富谷、仙台三ともに安定した投手力と堅守も併せ持つ、カラーの似た両校の戦いは、息詰まる投手戦となった。

富谷伊東、仙台三佐藤千の両先発は4回まで3塁ベースを踏ませず、一步も引かない展開となった。試合が動いたのは5回で富谷はランナーへのけん制が悪送球となり3塁へ進むと、2番櫻田のスライズで先制した。

一方仙台三は6回先頭の菅原が2塁打で出塁すると、尾形の適時打で追いついたが、続くチャンスは、後続が抑え込まれた。7回から仙台三は小野二継投し、終盤は両投手が踏ん張り、延長となった。

4回戦	石巻市民球場	2 時間 25 分		打安点盗犠四三残失併
仙 台 東	0 1 0 0 2 0	0 0 0 0	3	【仙】 35 9 3 0 1 1 8 7 5 0
東 北 学 院	0 5 0 3 1 0	0 0 x	9	【東】 29 7 7 2 5 6 3 7 1 1
(球) 武田 徹 (一) 小松宗夫 (二) 佐藤拓哉 (三) 佐々木勝弘				▽本塁打 なし
【仙】 藤原, 千葉達, 鈴木, 千葉優 一 伊藤				▽三塁打 及川 (学)
【東】 畠山, 伊東 一 加藤				▽二塁打 高橋, 小林 (仙) なし (東)
▽暴投 なし				▽捕逸 なし

【評】

第5シードの東北学院が、終始有利な展開で熱戦を制した。

2回裏の東北学院の攻撃、1満塁から1番大洞の適時打、2番今野の押し出し四球の後、3番及川の走者一掃の三塁打で一挙5点。4回裏にも無死満塁から、犠飛と失策絡みで3点を追加。救援した主戦伊藤が仙台東打線を抑え込み、優位に試合を進めた。

仙台東は、東北学院を上回る9安打を放ったが、好機をものにするのが出来ず3点を取るのが精一杯だった。また、四球と失策が失点に絡んだのが悔やまれる。

4回戦	鹿島台中央野球場	2 時間 17 分		打安点盗犠四三残失併
仙 台 西	0 0 0 0 2 0	0 0 0 0	2	【仙】 27 4 2 1 5 4 4 7 0 2
柴 田	1 0 0 0 0 0	0 0 0 0	1	【柴】 27 4 1 2 2 6 1 7 2 1
(球) 西山 充 (一) 大槻充夫 (二) 高橋正博 (三) 小倉貴仁				▽本塁打 なし
【仙】 櫻井, 黒川 一 安川				▽三塁打 沼田 (柴)
【柴】 谷木 一 舟山				▽二塁打 なし (仙) 大和田 (柴)
▽暴投 なし				▽捕逸 なし

【評】

仙台西が、選抜出場校柴田に対し、粘り強く守り、粘り強く攻めて勝ちをもぎ取ったゲーム。柴田は1回裏、1番、我妻、四球。盗塁の後、2番、横山の内野ゴロの間、一死三塁とし、3番、舟山の左翼犠飛により、無安打で勞せずして先取点をあげた。

仙台西は、5回表、5番、黒川が単打で出塁、6番、安川が犠打で送った後、7番、山木のショート正面のゴロがエラーとなる間に同点。8番、長谷部が犠打で、2死2塁とし、9番、田中の適時打で、勝ち越した。ゲーム後半、両軍の投手が要所を締めた結果、両軍とも得点することはできなかった。全体的に、仙台西の継投、2番手、主戦・黒川の落ち着いた投球、又、右翼手、田中の好守備が光った。仙台西は第84回大会優勝以来、19年ぶりとなるベスト8入りを果たした。

4回戦	鹿島台中央野球場	1 時間 45 分		打安点盗犠四三残失併
東北学院 榴ヶ岡	0 0 7 2 2		11	【榴】 23 9 10 4 2 7 0 6 0 0
石 巻 商 業	0 0 0 0 0		0	【石】 16 2 0 0 1 4 4 6 1 0
(球) 三浦 徹 (一) 高橋弥寿仁 (二) 黒沼 修 (三) 山下大輔				▽本塁打 竹長(榴)
【榴】 針生, 青田, 諸原 一 和野, 斎藤				▽三塁打 伊東(榴)
【石】 今泉, 阿部航, 木村遼 一 新田				▽二塁打 時山 (榴) なし (石)
▽暴投 木村遼2(石)				▽捕逸 なし

【評】

部員12人で2014年以来のベスト16進出となった石巻商業の先発は今泉。変則的な投球フォームから、走者は出すものの1・2回を無失点で切り抜ける。3回2アウトまで抑えるものの突如制球を乱し、3四死球と長短打で失点する。その後、マウンドをエース阿部航に譲ったものの、守備の乱れもあり、この回7失点する。

攻める榴ヶ岡は4回に2点を追加し、さらに5回には4番竹長の大会15号ツーランホームランで試合を決めた。榴ヶ岡は針生、青田、諸原の継投で石巻商業の攻撃を散發2安打で完封し、ベスト8進出を決めた。